

【随 筆】

今年のタンチョウカウント調査

住 吉 尚
(釧路支部)

1月の後半と言え一年で最も寒い時期ですね。そしてこの時期にタンチョウのカウント調査が始まります。これはタンチョウ保護研究グループと環境省が協力して、ローラーをかけるように十勝、釧路、根室を調査するものです。冬季ですから積雪があり、見に行かれないところもあるため完全とは言えません。でも生息数が最も良く調べられる調査です。とは言え、調査する方は大変です。昨年は雪が少なく、かなり広範囲にわたって調査ができました。でも今年は昨年より積雪があり、しかも堅い雪のためか4輪駆動車でも除雪していない築堤上などは通行できませんでした。また大変寒かったせいでしょうか、タンチョウはあまり広範囲に散らばっているようには見えませんでした。

初日は1月22日で、音別周辺での調査でした。私の受け持ちはここ何年か同じ調査範囲で、直別から尺別までが受け持ちです。もちろん数を数えるのが仕事ですが、見たタンチョウに足輪が付いているのか、付いていれば何番かを調べるのも仕事です。双眼鏡で番号が読めるほど近くにいれば苦労はありませんが、そんなに簡単にはいきません。写真を撮ろうとしても直ぐに逃げ出し、物陰に隠れてしまうことが多いからです。この日最初に見つけたタンチョウ家族の親の1羽に足輪があるのが見えました。車から降りると逃げ出しますから、何とか車の窓から見える位置に来てくれるのを待ちます。でもタンチョウの方は物陰から物陰へと移動して、逃げ出しそうです。それでも何とか読める写真が撮れ、212番と分かりました。そしてこの幼鳥は右の翼が折れていて飛ばません。昨年はヒナ2羽連れでしたが、その1羽がやはり翼が折れていて、今冬も積雪が増える前まではこの近くで見られていたのですが、今日は観察できませんでした。

2日目は阿寒です。私は阿寒観察センターから上流部で、観察センターには飛来しない個体数を数えるのが仕事でした。朝7時半集合と言うので、家を出るのは6時40分。これは調査そのものより大変です。5分遅刻でやっと集合場所に。調査範囲の地図を渡され、事前調査からの注意地点を聞き、サー出発です。昨日は助っ人が乗っ



11羽写っているのですが

ていましたが、今日はひとりです。早朝は川の中はケアラシでしょうか？もうもうと霧が出ていて、ツルがいるのかいないのかもわかりません。そんな中です、双眼鏡の中に寝ているタンチョウの背中が写りました。でもそれがどこなのかをもう一度見ようとしても中々見つけれません。しばらく探してやっと場所が分かりました。でも遠くの土手の陰なので正確な数が分かりません。少し霧が晴れたのでしばらく観察して、「11羽」と読み調査票に記入します。でも場所は遠く土手の陰ですから鳥の足元までは見えません。「足輪不明の11羽」と記入しました。1時間ほどして霧は晴れてきたので写真を撮り、拡大して確認しました。やはり11羽いるようでした。この日はこの他に幼鳥2羽連れの家族を2家族、幼鳥1羽連れの家族を1家族、幼鳥のいないペアを1ペア、見つけて調査終了となりました。

3日目は同じ時刻、同じ場所に集合です。阿寒と鶴居は給餌場に沢山のタンチョウが集まるので2日かけての調査です。そして土日で行うのが慣例です。阿寒での2日目のことです。朝、いつものように集合場所に集まっていると「住吉さん、阿寒で229番を見たと記入がありました、読み間違いはないでしょうか？」と言うのは、今季になってから阿寒でこの番号の観察記録がないのですよ！と。そこで私は自信満々に「読み間違いはありません。記録写真がありますから見ますか！」と。なんせ今季は足輪の付いた鳥を見つけると写真に撮っていますから、読み違いの多い老人でもばっちりです。こうして撮った写真を見せて「どうだ！」と。これはこんな時に威張るためではなく、写真に撮って良く見ないと自分自身が番号を読めないからなのです。特に動いていると番号が読めません。足輪に3桁の番号が書いてあるのですが、以前は縦に番号が書いてありましたが、数年前から数字を横書きにして足輪を少し短くしました。これがどんな結果を生むのか？気になっていましたが、今季の調査で私は以前の縦書きに軍配を上げたいと思いました。

これは縦書きの方が文字と文字の間が少し広いので、遠くから見ても読みやすいからです。番号を読むときにはちょっとしたコツがあります。小さな足輪に書いてある番号でも1字ずつに神経を集中します。こうしないと私には読めないのです。最初の2が読めたら次の数字は！と凝視します。すると動いていても突然その番号がみえる瞬間があるのです。次も2、では最後の番号は！という風に読んでいきます。もちろん動かない場合などではすべての番号が一瞬で読める場合もありますが、私の経験ではこんなことはあまり多くはありません。今日は昨日と違って仁々志別方面が調査範囲でした。あちこち見て歩き、午後になってから現れるかもしれないと、同じ範囲を午後も調査しました。こうして何とか調査範囲のタンチョウの数を数え、足輪の番号を読み、場所を地図上に記入し、そこで見たタンチョウの数や家族構成など分かったことを記入して終了です。3時過ぎに集合場所に行くと、ほとんどの調査員は帰った後でした。「今日もつかれたー！」

さて次の日、月曜日は集合場所が忠類道の駅です。我が家からは2時間では着けません。往復だけでも大変なのに、ここから午前2時間、午後2時間の調査です。最初はトウベリ川でねぐらをとっているタンチョウを追い出し、数を数えるという作戦です。でも最初は橋の下流部を攻めましたが7羽ほどが出てきただけでした。今年は多くが橋の上流部で寝ていたようです。こちらからは十数羽が出てきたようですが、我々の守備範囲からは林の向こうで全く見えませんでした。昼食後はさらに西側の紋別川と小紋別川周辺が調査範囲です。私は小紋別川が守備範囲ですが、豊似まで行けとのこと。こうして豊似で2羽、小紋別川周辺で9羽を見つけたところで電話が鳴り、終了せよ！とのこと。ちょうどレーダー付きパ

トカーが変な場所に駐車している不信人物と思ったか、じっと見つめて通り過ぎ、やはり気になったのか、もう1度引き返してきて見て行きましたが、能天気な爺さんは無害と思ったのでしょう。通り過ぎて行きました。集合場所に帰ると私たちが最後でした。もう4時近かったので家に着くのは6時過ぎです。

そして翌日はJR池田駅9時半集合です。ここでは十勝利別川の池田から本別までの間が私たちの調査区間です。築堤を走るためにランクルを借りて行きましたが、わずか20cmの雪でも堅いので雪を踏破して行けず調査はさっぱりでした。

月、火曜日は十勝で、水曜日は調査自体がお休み。これは水曜日には私が獣医師会での事務仕事があるからです。木、金曜日には標茶町の調査があり、次の土、日曜日は鶴居です。鶴居には鶴見台給餌場と野鳥の会の給餌場の2カ所があり、それぞれの給餌場で違う時間に給餌を行っているので、ツルがどちらの給餌場を使うか？また、両方に行く個体はいるのか？を知るためにも、足輪を付けたタンチョウがいることが大きな意味を持つこと



263番は氷に覆われていました



229番がばっちり



こんな足輪も

になります。今季私はちょうどこの両方の給餌場の中間にある農場に沢山のタンチョウが飛来しているのを見つけました。そしてこの中間の農場に飛来しているタンチョウの中に263番の番号が付いた個体を見つけました。そしてこの番号の個体は鶴見台給餌場でも見ているとの報告を受けました。これでこの農場に飛来しているタンチョウは鶴見台給餌場を飛び立つとこの農場に飛来しているということが分かり、野鳥の会の給餌場へは行かないらしいということも分かってきました。もちろんですが、足輪が着いた個体の動向だけではなく、この農場に飛来するタンチョウはどの方向から来てどの方向に帰るかも重要な要素です。でもこの農場に飛来している100羽近いタンチョウの内、足輪が付いた個体は2羽しか見つけられませんでした。正確な行動を把握するためにはこの10倍、100羽の内20羽ぐらいに足輪が付いているとより正確な行動調査ができるのですが、まだまだですね。

さて、カウント調査の最後は釧路東部と根室管内です。これを今年は2日かけて調査します。初日の月曜日、私の担当地域は厚岸から浜中町の外れまでで、海岸から国道44号線の間の地域でした。厚岸水鳥観察館で相棒を車に乗せ、まずは海岸沿いに行きました。厚岸湖はほぼ全面結氷しているのでタンチョウはいないようなので、藻散布、火散布へ。最初に見たのはたった1羽だけで、沼の縁の雪原に立っているタンチョウです。「アリヤ、1羽だけ！」連れ合いは死んだのでしょうか？他人事とは言え何やら力が抜けていくほどがっかりです。昨年は2羽で、その前はヒナを連れて3羽で越冬していたのに。1羽に何かあったのでしょうかね。気のせいでしょうか、ずいぶんしょんぼりしているように見えました。次の沼ではペアのタンチョウです。ほっとしました。そして姉別で幼鳥1羽を連れた家族を見たところで昼休みです。さて午後は浜中から姉別まで中通りを通って姉別に戻り、もう一度海岸通りを通って帰ることにしました。すると午前中は通らなかった所でタンチョウが1羽、農家の堆肥山にいました。車を降り堆肥の陰も見ましたが、ここでもたった1羽でした。この個体も連れ合いに死に別れたのでしょうか？それにしても2カ所で単独個体とは！と嫌な感じを引きずりながらも海岸通りを戻ります。私は調査区域を何度もしつこく見ることにしていますから、少なくとも2回は見なければ気がすみません。こうしてこの日は単独個体がいた沼でさらに1組のペアを確認して終了しました。

さらに翌日です。今度は西別川の東側で上春別から尾岱沼の間が私の調査区域です。中西別周辺で十数羽のタ

ンチョウを見つけた後、昼食前にもう少し調査しながら別海へと走っていると、農家の堆肥山にタンチョウが。成鳥が2、幼鳥連れで3、また成鳥が2、？と言うことで、その農家に敷地内に入り調査することの許可をもらって敷地内を調べました。するとこの農家だけで24羽ものタンチョウがいました。でもこの中に昨年生まれの幼鳥は1羽しかいませんでした。思い返すと、日曜日に私が鶴居で見た100羽ほどの群れの中に幼鳥は3羽しかいませんでしたので、今年はずいぶん幼鳥の数が少ないのかな？これは私が調査を受け持った場所だけのことかもしれませんので、全体像が見えているわけではありません。でも昨年足輪を付けたタンチョウの性別が極端に偏っていること、そしてこの冬の調査で幼鳥の数が大変少なくなれば、順調に増加してきた北海道のタンチョウに何か異変が起きてきているような気がしてきました。分布の辺縁部である十勝や弟子屈などでは健全な個体が多く、分布の中央部である鶴居から南根室では近交劣化が起きているのではないかと私の最も危惧するところなのですが、もう少し全体像が見えてきたら答えも出るのでしょうか。



ツルと牛が同居しています

こう書いていると、私はいつも巡回しながらの調査ばかりと言うのがお分かりでしょう。これは私が調査期間のすべてに参加する代わりに、定点での調査から外してもらっているからです。なぜ？ですって！それは巡回調査がほぼ車の中で済むので寒くないからです。定点の調査はどちらから何羽、総数は何羽、と数えるのが仕事ですから、外に立ち続けるのでとても寒いのです。でも巡回調査は車の運転をしながらタンチョウ探すので、これはまた疲れるものです。さてあと何年続けられますやら。